

ダンチ de コソダテ in 男山団地 地域子育て支援施設「おひさまテラス」の開設

KSP 関西大学
戦略的研究基盤
団地再編
リーフレット
-Re-DANCHI leaflet-

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

SEPTEMBER 2015 VOL. 177



はじめに

この実践的な取り組みは、男山まちづくり連携協定書の第1項「次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支え合い、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導入・確立」をめざし、地域での子育て環境をつくるために、関西大学、UR都市再生機構、八幡市の連携協定の主体者である三者に京都府を加え、四者が連携し、平成26年度に実施する取り組みである。（以下、四者とは、関西大学、UR都市再生機構、八幡市、京都府を示す）

八幡市は子育て支援に積極的に取り組んでおり、八幡市として提供できる公共サービスは充実していた。そのため、子育て支援環境の問題点は顕在化していない状態であった。一方で、だんだんテラスでの活動や男山での暮らしのアンケートの中からは、『もっと身近な子育て

支援の環境がほしい』などの意見が寄せられており、より細やかな範囲での子育て支援の環境という潜在的に存在していたニーズが、顕在化してきた。その中でも、八幡市全域での子育て支援の現状、特に子育て支援センターの立地から見た未就園児のサポート環境と、男山団地の環境、特に空室率、高齢化率、周辺の子育て施設への利便性などから、男山団地のA地区が子育て支援への取り組み対象地としてもっとも適した地区であると選定し、取り組みの対象とすることとした。

本稿では、男山まちづくり連携協定を軸に男山団地A地区を対象に子育て支援施設「おひさまテラス」の開設に至った経緯と、その活動内容の詳細や日々の運営状況、おひさまテラスの開設がもたらした地域への影響等について解説したものである。

1. 背景、目的とその枠組み

①ダンチ de コソダテの背景と目的

八幡市は子育て支援に積極的に取り組んでおり、平成26年4月時点において、待機児童数は0名であり、地域の子育て支援センターには、多くの来館者があり、八幡市として提供できる公共サービスは充実していた。そのため、子育て支援環境の問題点は顕在化していない状態であった。一方で、だんだんテラスでの活動や男山での暮らしのアンケートの中からは、『もっと身近な子育て支援の環境がほしい』などの意見が寄せられており、より細やかな範囲での子育て支援の環境という潜在的に存在していたニーズが、顕在化してきた。当時、既に2カ所に子育て支援センターが設置されていたが、広域での支援とより小さな地域での支援を区別することは難しく、子育て支援センターによる子育て環境の向上ではサポートしきれない原状が明らかになり始めていた。特に子育て支援センターのサポートを必要とする未就園児を育てる世帯への細やかなケアが難しい状態であった。

一方で、男山団地に目を向けると、全体の中で空室率が高い状態であるのはA地区であった。男山団地A地区は、最初に建設された地区であり、他の地区と比較すると住棟間隔が広く、大きなオープンスペースを有している。しかし、交通利便性が低く、近接した主要駅である京阪樟葉駅へのバス便が団地中央センターと比較し少ない。また、小さな飲食店舗やスーパーなども徒歩圏では充実しているとは言えない状態である。これは、子育て環境についても、徒歩圏での充実という問題が存在する。もっとも近い子育て支援センターへも徒歩では30分以上あり、車がない人には利用することが困難であった。子育て支援センターは未就園児に対する子育て支援という側面も強くあり、A地区において未就園児を育てている世帯にとっては、子育て支援

が少ない環境となっていた。

八幡市全域での子育て支援の現状、特に子育て支援センターの立地から見た未就園児のサポート環境と、男山団地の環境、特に空室率、高齢化率、周辺の子育て施設への利便性などから、男山団地のA地区が子育て支援への取り組み対象地としてもっとも適した地区であると選定し、取り組みの対象とすることとした。

団地から発信する子育て環境の整備を考えるために、ハードとソフトの両面からの取り組みにより、子育て世帯がより暮らしやすい団地の環境を目指した。団地が持つストックを見直し、団地のストックに利用して計画することにより、地域環境全体が良くなることを目的とした。

②ダンチ de コソダテの枠組み

ダンチ de コソダテは、上述のようにハード面、ソフト面の両面から同時に取り組むこととした。四者による準備段階での協議によって、ハード面の取り組みとして「子育て世代向けリノベーション住戸の供給」、ソフト面の取り組みとして「子育て支援施設の導入」の二つの取り組みを行うこととした。これらのハード、ソフトの両面を同時に進めるため、四者が連携して行う会議体を複数設置し、全体像を把握しながら、具体的に取り組みを進める体制を整えた。また、詳細は後述するが、これらの体制を整える中で、ソフト事業の先駆者として地域で子育て支援サークルを主催していた地域住民にも会議体に参加してもらうこととした。

具体的には、次に示す3つの会議体を設置し、取り組みの体制を構築した。

【A会議】

参加者：関西大学（提案部会）
UR都市再生機構（ストック再生チーム）
八幡市（都市計画課、子育て支援課）
京都府（地域振興課、子育て支援課）

内容：子育て支援の取り組み全体の方向性の共有・確認を行う。

行政による補助金制度などとの連携など、具体策を検討する。

開催：月1回程度

【a会議】

参加者：関西大学（提案部会）

UR都市再生機構

（ストック再生チーム、技術管理部）

内容：「子育て世代向けリノベーション」の実施のための技術的打合せ

開催：隔週

【b会議】

参加者：関西大学（提案部会）

八幡市（子育て支援課）

地域住民

内容：「子育て支援施設」の具体的な支援内容の検討。運営方法の検討。

開催：隔週＋随時（大学による作業サポート）

2. 子育て支援施設の導入

①子育て支援施設のコンセプト

子育て支援施設は、地域住民の有志グループと関西大学により施設の立ち上げに向けて一緒に活動を開始した。地域住民の有志グループは、元保育士や元養護教諭など、育児や教育の経験者であった。そのため、プログラムの内容に関する基礎的な知識は持っていたため、自分たちが提供したいサービス像は描くことはできた。ただし、現状の八幡市での子育てに関するサービスの現状を把握出来ておらず、八幡市としてサー



図1.A会議の様子（だんだんテラスにて）

ビスが足りていない要素を市の子育て支援課から情報を提供してもらい、自分たちが提供すべきサービス内容の全体としての位置づけを検討した。八幡市では、公設公営で、様々なサービスを展開している。具体的なサービス内容は、1) 保育園の運営、2) ファミリーサポート事業の運営、3) 幼児の医療費補助、4) 児童相談所の運営、5) 一時預かりサービスの運営、の5種のサービスに分類できる。サービスの内容としては、不足は少なく、待機児童数も0人である。しかし、2) ファミリーサポートセンターの利用率や、5) の一時預かりの手続きの煩雑さなど、サービスの枠組みには問題が感じられないが、実際の利用の際には、小さな障害や、住民の認知度の低さから利用率が上がりにくい現状がある。八幡市には様々なサービスがあり、子育て支援センターのような大きなエリアをカバーする施設が充実している、一方で、小さなエリアで見た時のサポートの細やかさには、保育園の一時預かりなど戦士的な取り組みはあるものの、その取り組みには限界があることもわかった。

UR 男山団地のように団地形式の集合住宅では、転勤で男山に引っ越してきた人など、地域での繋がりを持たない人も多い、そこで上述の認知度の低さなどの問題も鑑みて、子育て支援施設のコンセプトとして、歩いて行ける身近な距離にある“家族のような”施設となることを目指した。このコンセプトに見合う施設の名前として、施設の名称を「おひさまテラス」とし、運営グループ「おひさまテラスの会」を立ち上げ、施設の開設に向けての準備を2014年5月より始めた。

②「おひさまテラス」の2つの機能

先に述べたように、八幡市では子育て支援の枠組みはすでに一定以上確立している。細やかなサービスを行うために、親が直面している問題、

課題を行政の公的なサービスと民間でのサービスとでの役割の区別を検討した。

多くの親たちは、細かなストレスを感じ育児に苦勞を感じているとはいえ、元気に明るく子育てをしている。その中の一部の親がストレスの積み重ねが限界を超え、育児ノイローゼ気味になってしまうなど、子育てに苦しむ親になってしまう。さらにその一部が最終的に虐待を行ってしまうなど、事件につながる行為にまで至ってしまう。(図1) 公的サービスを提供する行政には、保育士だけでなく、育児に関するカウンセリングを専門的に行うことが出来るカウンセラーや、保健師など様々な資格を持った専門家が多様に存在する。それらの専門家は、普段元気である親にとってはあまり必要なものではないが、ひとたび育児ノイローゼなどの自らの限界を超えると必要な要素となる。すなわち、図1に示すlevel 1の親をサポートすることは、専門的な知識のある公的なサービスでないと対応が難しい。そこで、おひさまテラスでは、図1に示すlevel 0に分類される状態の親が、level 1の状態とならないための日常的なサポートを小さな地域で展開することとした。

そこで、必要な機能としては、「遊びの広場」と「一時預かり」の2つの機能を提供することとした。これらの機能は、既に八幡市の公共事業によっても行われている事業である。しかし、それぞれの事業ではカバーしきれないニーズが親にはあり、そこを日常的に解決することにより親にかかるストレスを少しでも少なくすることを目指した。「遊びの広場」は八幡市の事業では常設で開かれているのは、子育て支援センターのみであり、当時は市域の中に2か所しかなく、3カ所目が計画されている段階であった。少ないセンターに通うためには、距離が遠い、交通手段がないなどの問題があり、なかなか

利用につながらないことも多い。また、センターでは昼食をとることができず、お昼時には一度、センターをでなければならぬというルールもあり、距離が離れると利用しにくいという現実があった。「一時預かり」に関しては、事前に予約が必要となり、突然の対応が出来ない。また、一日単位での設定のため、短時間の預かりサービスがなく、非日常的なイベント時以外での利用がしにくい現状がある。これら二つのサービスのそれぞれの小さなストレスとなっている部分を解消することで、出来る限り身近に、利用しやすい施設となることで、コンセプトである“家族のような”施設を目指すこととした。

③4者の連携から生まれた運営へのサポート

おひさまテラスの運営に当たっては、施設利用料、光熱費、施設利用時の事故に対する保険、イベントにかかる費用など様々な運営費が発生する。これらの費用に関しては4者連携の中から様々な形でサポートを受けることにより、運営が実現している。

関西大学からは、おひさまテラスの会に対し、運営の仕組みづくりやその他の事業主体との連携の場づくりが行われ、UR 都市再生機構は集会所を地域に対する公共サポートという理由から、施設利用料、及び光熱費の免除を頂いた。京都府からはイベント費用に関して、地域活動に対する補助金を受けることで、おひさまテラスのイベントを実施することが出来た。

基礎自治体である八幡市とは特に強く連携し、おひさまテラスの2つの事業のうちの一つである「一時預かり事業」に関して、既に八幡市において運営されていた、ファミリーサポートセンター制度を形を変えて「おひさまテラスファミリーサポート」とし、「遊びの広場」「一時預かり事業」ともに、運営時の保険の適

用を受けられる体制を整えた。この連携手法は、前例がなく画期的な手法であると言える。

④「おひさまテラス」の開設

おひさまテラスは、当初、UR 団地の一階住戸をコンバージョンすることで、住まいの近くに必要施設を設けることを目指した。しかし、UR 内の制度的な制約もあり、コンバージョンの案は採用することが出来なくなった。

そこで、男山団地 A 地区にある集会所の一室をリノベーションし、時間借りすることで、施設の運営を開始することとした。先述の通り、4 者連携の中で施設運営のサポートとして、時間借りする際の利用料を免除してもらうことで、継続的に施設が運営できる仕組みを確立させた。また、施設開設のためのリノベーション工事では、施設として必要な設備をあらかじめ準備し、床暖房の設置や赤ちゃんの事故防止のための柵の設置などのリノベーションを行い、子供を預かることが出来る施設へとリノベーションを行った。

開設以来、0 人となることなく利用がある。地域の子育てサークルに参加を呼び換え 10 組を超える利用がある場合もある。また、地域の他のサークルと協働し、市の施設を借り子供向けのコンサート実施、木工イベントの開催など、積極的に地域の既存グループとも連携を始めている。また、自治会のお祭りのサポートなども行い地域とともに連携しながら、活動を続けている。

3. ダンチ de コソダテの成果

おひさまテラスには、住民から「お

ひさまテラスがあるから引っ越しを決めた」との声をも届いており、A 地区としての魅力が明確になり始めている。夏場は、プールを持って来て、水遊びをするなど、地域の中で子どもが遊んでいる姿が A 地区の住民たちからも少しずつ認知され、普通の風景として息づき始めている。2015 年度にもリノベーション住戸を供給する予定となっており、今後も A 地区の中に暮らす世代間 MIX が進むことが期待される。



図 1. 水遊びの様子

1 月おひさまテラス便り
おひさまテラスはほのぼの*遊びに来てね。

おめでとうございます。新しい年を迎え、もっともっと新しいお友達に出会いたいと思っ
ています。よろしくお願ひします。
*新しい試みとして、サークルを作りたいたいと思ひます。
※参加費は無料です。お友達に生活のリズムを作りながら
休養、手遊び、歌、制作など時間の中で活動することを楽しんでみませんか？
お友達を募集します。ご連絡ください。

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8	9	10
					遊びに来て ね	遊びに来て ね
11	12	13	14	15	16	17
お休み	休養 賑わいの しよう。	休養 賑わいの か ができる よ。	お休み	お休み	お話し会 お本の読み 聞かせ。 賑わいの 賑わい だよ。	お話し会 お本の読み 聞かせ。 賑わいの 賑わい だよ。
18	19	20	21	22	23	24
お休み	休養 たこ揚げ を作ろう。	休養 たこ揚げ しよう。	お休み	お休み	たこ揚げ を作ろう。 たこ揚げ だよ。	たこ揚げ を作ろう。 たこ揚げ だよ。
25	26	27	28	29	30	31
お休み	鬼のお面 を作ろう。 鬼さんい つるかも つるかも	鬼のお面 作り 鬼さんい つるかも つるかも	お休み	お休み	鬼さんい つるかも つるかも	鬼さんい つるかも つるかも

サークル会員募集中です。よろしくね。
お問い合わせ おひさまテラス
http://www.ohisama-terasu.jp

図 1. 日々のスケジュール



図 1. 持ち寄ってお弁当を食べる様子



図 1. おひな様づくりの様子

おひさま
テラス PRESENTS
ふれすと
音楽サークルの
三ツ星コンサート
入場無料

と き 平成 27 年 5 月 25 日 (月)
11 時半 ~ 12 時頃 休場 11 時 15 分
と ころ 八幡市立竹園児童センター

吹奏楽による乳幼児向けのコンサートです
一緒に歌ったり踊ったりしませんか？

おひさま
テラス 0-5 歳までの子ども
ママ (保護者) が楽しく参加できる
子育て支援施設「おひさまテラス」です。
UR 東淀川地区の A 地区に開設されています。
※参加費は無料です。お友達に生活のリズムを作りながら
休養、手遊び、歌、制作など時間の中で活動することを楽しんでみませんか？
お友達を募集します。ご連絡ください。
http://www.ohisama-terasu.jp

ふれすと 0-5 歳までの子ども
ママ (保護者) が楽しく参加できる
子育て支援施設「おひさまテラス」です。
UR 東淀川地区の A 地区に開設されています。
※参加費は無料です。お友達に生活のリズムを作りながら
休養、手遊び、歌、制作など時間の中で活動することを楽しんでみませんか？
お友達を募集します。ご連絡ください。
http://www.ohisama-terasu.jp

図 1. イベント開催予告チラシ

『ダンチ de コソダテ in 男山団地 地域子育て支援施設「おひさまテラス」の開設』

作成：福本 優 (関西大学大学院 博士課程後期)
宮崎篤徳 (関西大学 先端科学技術推進機構)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「集合住宅「団地」の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究
(平成 23 年度~平成 27 年度)」によって作成された。

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号
先端科学技術推進機構 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)
URL : http://ksdp.jimbo.com